

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100298		
法人名	株式会社 SORA		
事業所名	グループホーム ファミリー(ユニット1)		
所在地	上川郡東川町北町5丁目4番10号		
自己評価作成日	令和 6年 1月 20日	評価結果市町村受理日	令和6年3月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyouCd=0173100298-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和6年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度から株式会社 SORA と社名が変わりました。運営理念もSORAから取り笑顔・開かれた心・敬意・感謝と改変され、新たな気持ちで職員一丸となって介護に慢心いたします。
グループホーム ファミリーは大雪山が一望出来き、旭川駅まで車で20分、旭川空港まで車で30分の場所に介護付き有料老人ホーム2棟隣接しグループホームは2ユニットあります。
東川町は自然な青く澄んだ空と四季を感じる事が出来き、春には窓からも桜が見られ、夏には敷地内の遊歩道を散歩しながら周りの景色を鑑賞し、家庭菜園の野菜を収穫したり楽しんでいます。
行事としてはキトウシ公園の桜を見に行ったり、美瑛・上富良野・天人峡温泉へ花見や紅葉を見に出掛け、気分転換して頂きます。
野外で焼肉をしたり盆踊り等も楽しみの一つですコロナ禍で面会も難しい時期もありましたが、短い時間でもご家族様に来て元氣を出して頂けるようコロナ対策をしております。
今後は職員一同、入居者様に喜んで頂ける質の高い介護サービスを提供出来る様に施設内研修を行っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季折々の田園風景や大雪山連峰が一望できる環境の、閑静な住宅地に位置する鉄骨造り2階建2ユニットの事業所です。隣接する同法人介護付き有料老人ホームとは、災害対策や行事食作り等で連携しています。天候の良い時期は広大な敷地内の散歩や、菜園、果樹畑に出て収穫を楽しむ機会を多く持ち、今年度は戸外でユニット対抗の運動会を開催し、利用者と職員で大いに盛り上がりました。外出行事も多く、旭川の公園などへ出かけたり、焼肉会や、回転寿司などの外食も再開しています。家族へは事業所便りと個別の便りを発送し、運営推進会議にも日常の様子を写真付き資料を添え報告しています。生活の営みを通じ作業療法的支援を日常に組み込み込んでおり、一例ですが、食事作りの一連の作業を担ってもらい、その人らしく、持っている力を発揮できるようにしています。重度化を迎えた利用者が可能な限り安全・安心の下に暮らせるよう、生活環境を適宜、再構成し温かい支援が行われています。理念を軸に職員が自身の介護に対する計画を立て半期に1度評価する取り組みも継続し、実施したい研修を職員が設定し全体で学び合う体制も効果を上げています。利用者の個性や言動の中にある感情を察し、本人と共に過ごし支え合う関係を築きながら、温かい介護支援に取り組んでいる事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新事業の為、新しい理念を全職員に共有して貰うために、理念を携帯させ、いつでも確認できるようにしている。	「笑顔」「開かれた心」「敬意」「感謝」の文言を事業所理念として標榜しています。理念を軸とした目標を職員一人ひとりが設定し、半期に1度評価して各ユニットに掲示するなど、理念が事業所全体のものとなるよう取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流センターにカフェを作り、誰でも利用できる様な環境を作っている。	町内会に加入し、運営推進会議に地域住民の参加を得ています。町内の自然環境や生活資源を活用して、利用者に必要な支援を行っています。1階交流センターに誰でも気軽に訪れる事ができるカフェを設置し、地域交流を促進する事としています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナの影響で現在は受け入れてはいないが、いつでも再開出来る様に整えている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナも収束し定期的な運営推進会議を実施し多くの家族も主席頂き、役場や地域の方々と交流が来ている。	会議は参集にて開催しています。家族の出席を得ており、意見交換の内容は議事録に載せ構成員へ送付しています。利用者状況、活動状況、事故・ヒヤリハット事項はユニット毎に報告し、今後は職員の入退職の報告を行う事としています。	会議に参加できない構成員からも、意見等を聴取し反映させることは、全体としての協議や情報連携に繋がり、会議が推進します。今後は会議案内の返信葉書に意見が出やすいよう予め中心課題等を記載し、意見・要望等を得る仕組みを検討していますので、実施に期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席頂き現状報告や意見交換を行っている。	町や上川総合振興局と連携し適正な運営の維持に向け、協働関係を築いています。事業所は、精度を高めるための書類関係の見直しに取り組んでおり、今後も担当部署との情報連携に向けています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、身体拘束委員会が社内研修を実施し職員同士でも意見交換を身体拘束廃止に努めている	虐待防止及び身体拘束適正化委員会を定期開催し、年2回これらに係る内部研修を実施しています。今年度の内部研修は、「身体拘束の指針を共有し、記録や書類を理解する」「認知症ケア」について学んでいます。玄関は夜間帯のみ施錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会で議題にも取り上げ職員間でどのようなことが虐待なのか周知し、防犯に努めている。又個々の意見や考え方を集約し虐待防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで制度の理解、対象者の把握をし、必要時は提供できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を事前に渡し、一度読んでいただいてから説明を行い、疑問点をクリアにし十分理解いただいた上で締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の心配事や入居者の状況は伝え不安が軽減出来る様努めている。他市町村のコロナ感染状況見ながらリモートやアクリルパーテーションを使用して面会を頂いている。マスク着用や換気も随時行っている。	利用者から「正月だから酒を」の意見にはノンアルコールビールの提供を申し出たり、「お花を見に行きたい」との要望にも外出行事や天候や時間を見計らい敷地内で楽しめるようにしています。家族から気がかりな事が寄せられた際は、その都度説明し対応しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には年に2回自己評価表を提出し人事考課に反映している。職員の悩みや意見は管理者が対応している。	管理者は、職員一人ひとりと話しやすい関係を築き、相談事等に応じたり、必要時の面談や毎月のスタッフミーティングでも一緒に話し合い調整しています。半期に1度の職員が実施する自己評価の取り組みも個々の省察となり、今後に向け生かされたものとなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに1年間の目標を各職員に掲げてもらい2回の人事考課を行い、面談等で話を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に研修を立案させ職員間で発表し、研修謝礼を出している。管理者が職員に受けた研修を募り参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域の同業者と施設の研修などで交流を図り情報交換を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	多くの関わりを持ち、コミュニケーションを図る。得た情報は職員間で共有し、ニーズにあった介助ができるよう努める。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの不安や要望を伺い、納得した介助ができるよう努め、安心していただけるような関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や見学の際、どんな支援を必要としているのかを見極め、他のサービスを含めどんな支援が考えられるのか、お話しさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いろいろな場面で入居者と協力し業務を行っている。一緒に歌番組を見たり、会話をしたり、笑ったり、楽しんだりする機会を作っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り家族と面会ができるように予約なしでも対応している。 外出等、家族との時間を過ごして頂ける環境を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会等、制限なしで面会を実施している。	家族との面会が再開され、1階交流スペースで和やかな時間が持てるようサポートし、重度化の利用者は居室にて対応しています。家族と一緒に外出する利用者もいます。電話や手紙の支援も希望に応じ対応しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がかかわり、良好な関係が築けるよう職員が間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了となり自宅に戻られた方はいないが、他の施設や病院に入られた場合電話にて生活状況を聞いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の生活歴を踏まえ、本人の思いや希望が把握できるよう本人とのコミュニケーションを図っている。	職員は利用者との関わりや観察の中で、望んでいる事や不快な事、本人の変化などを捉え、暮らしの現状の把握に努め、毎月のスタッフミーティングで情報共有しています。家族等からも利用開始前の状況や生活歴等の情報を得ています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話を聞くことはもちろんのこと、家族のコミュニケーションも密に行い、情報の掘り起こしを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	睡眠や排泄パターン、心身状態などを日々観察し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントにて情報収集し、本人・家族の希望や意向、また医師からの助言を反映させている。課題に関しては職員間で話し合い、提案なども取り入れ介護計画を作成している。	職員から寄せられた情報を集約し、介護支援専門員がモニタリングしています。本人や家族の意向を確認し、医療関係者の意見も合わせ、より良く暮らせるための現状に即した介護計画を策定しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録に特記欄を設け記入できるようにしており、職員間の情報共有に利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出はマスクを着用し積極的に行っている。家族や本人の意見に沿える様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会資源を把握し、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が定期的に訪問診療を行う他、医療連携で毎週看護師が健康チェックや急な体調不良に対応している。その他に病院に関しても初期の病変で受診出来る様にしている。	協力医療機関による定期往診と歯科は必要時に往診が得られ、月2回、医療連携で看護師が健康管理支援に訪れています。専門他科への通院受診は、事業所に対応しています。受診状況は個別に記録し家族と情報共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携先の訪問看護師が訪問した際、1週間の様子や体調不良の相談を行い助言を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に制限があるので電話にて状況を確認している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向があれば可能な限りホームで対応している。かかりつけ医や家族、入居者の意向がでた段階で話し合いを行い、慎重に対応している。	利用契約時に重度化や終末期に係る事業所方針を説明しています。齟齬の無いよう、書類の精度を高めるための整備に向けています。医療機関から今後の見通しを受け、リビング・ウィルの書面を通じ、家族等と意思確認を行っています。現在、重度化の利用者の支援に尽力しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で行われた救命訓練に参加し応急手当を学んでいる。また急変時には対応方法をファイルにしておき、それを参考に動けるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には緊急連絡網で全職員に連絡し、駆けつけてもらうことにしている。	令和5年5月に日中想定の方災避難訓練を消防署の協力を得て実施し、10月は夜間想定で行いました。訓練は隣接の有料老人ホームと合同で行っています。7月、11月には水害想定で非常階段を使用した垂直訓練に取り組みました。災害備蓄品、協力者を確保し、自然災害発生時における業務継続計画の策定に至っています。	指定収容避難場所への避難誘導と避難生活を送る場合の想定される課題等の抽出や対策について、運営推進会議を通じ、協議や情報共有に取り組むのも防災対策の強化に繋がりますので、これらにおける検討に期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシーや恥辱心に配慮した言葉かけや対応を行っている。	内部研修や虐待防止及び身体拘束適正化委員会で言葉かけや接遇等について学び、声かけ時の語尾や語調に配慮しています。所作や話の進め方など、利用者との関わりを通じ、学びを得る機会もあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でどちらか選んで頂く場面を設定したり、聞かれた質問で自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人一人の体調、希望に合わせて外出支援や余暇の時間を利用出来る様に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んで頂いたり、整容の声掛けなどの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の希望を取り入れたり、本人の出来る範囲で下膳等の支援を行っている。食事中も見守りしながら楽しく安全に接取出来る様支援している。	副食は業者から届き、事業所で主食と汁物を調理しています。季節行事食は有料老人ホーム調理専門員の協力を得ています。調理レクリエーションで利用者が食事一連の流れに携わっています。誕生日の祝膳や回転寿司の夕食、事業所前での焼肉会など、変化をつけ楽しめる食を提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家族的ながらもバランスの取れた食事を提供出来る様にしている。食事の量も本人と相談しながら提供している。摂取量の確認し記録を残し、水分補給は時間決めて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の力や義歯の有無に応じたケアを行っている。歯磨き後も磨き残しが無いか確認している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを考慮してトイレでの排泄が出来る様に誘導や声掛けを行っている。	生活シートに排泄状況を記載し、排便は性状や量、排便間隔を記録して健康管理に努めています。可能な限りトイレ排泄を支援し、重度化等の方はベッド上で排泄用品類を交換しています。夜間頻尿の方は負担回避や安全に配慮しポータブルトイレを使用しています。退院時、バルーンカテーテルであった利用者が、自分で排泄をしたいとの意思を受け、医療と連携しつつ誘導でトイレ排泄が可能となった方がいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者は医療と連携を図り排便コントロールが出来るよう心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回入浴支援を行っている。入浴時間の長さや時間帯においては希望に沿える様にしている。	午前時間帯で支援し、スムーズな入浴ができています。ADLに合わせ入浴補助機器類を使用しています。湯加減や長風呂など健康状況を鑑みつつ本人の好む入浴の習慣に対応しています。入浴中は利用者のお喋りも増し、寛ぎながら職員との会話を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣や就寝時間を最大限優先し、自宅に居た時と変わらず安心して休める事が出来る様、また清潔な寝具で休んで頂ける世に交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している薬は薬表ですぐに確認できるようにしている。新たに処方になった場合は効果や副作用などミーティング等で伝えあい、変化があった時は全職員で周知する。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を踏まえ、歌謡曲や時代劇を鑑賞したり職員との会話で気分転換が出来る様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や天候を見ながら外に出掛けられる様にしている。外出行事は希望や嗜好に沿いながら実施している。	敷地内の散歩やベンチに腰掛けて外気浴をしたり、菜園や果樹畑に出て収穫を楽しんでいます。車椅子使用の利用者へは、実のなった枝木を近づけ収穫できるようにしています。外出行事も多く、北鎮記念館やキトウシ公園、ぜれぶの丘などへ出かけ、家族と一緒に外出する利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、現金は居室に持ち込まず事業所ごとで個別でお預かりしている。希望があればその都度購入し出納帳にて家族に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って代行して家族の声が聞ける様に支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースの壁には行事の写真を提示したり、今が何月何日なのか分かりやすく、手作りのカレンダーを掲示している。食事する場所と休憩出来る場所を分けて、居心地の良く過ごして頂ける様に努めている。	共用空間はダイニングコーナーと、ワークションある配置のソファコーナーを設けています。手作りカレンダーや季節感ある飾り、利用者の作品類が飾られています。暖房は床暖式で、エアコン、空気清浄機、加湿器を設置し空調を管理しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望に沿い、思い思いの場所でテレビや新聞などを見て過ごせる様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真を飾ったり、自宅で使っていた家具を持ち込んで頂いたり、自宅に居た時の様な雰囲気作りを大切にしている。	居室には介護用ベッドとオープンクローゼット、ナースコールが備え付けられています。馴染みの家具や調度品、家族写真、愛着のある品が持ち込まれています。利用者の状態により家具等の配置の見直しや居室移動をするなどして環境を整えています。夏物冬物の衣類等、事業所倉庫で預かる事ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者個々の力を活かし、出来るだけ自立した生活が出来る様に支援している。		